卒業生の活動報告 高橋 清 氏（29C）

高橋清（29C）さんはまだ自然が豊かだった大間々（みどり市）のご出身です。
少年時代、友達と一緒に夕暮れの空に飛んでいるコウモリを眺めながら、何であるか決めかねていました。そのころから、コウモリや自然一般のことに興味を持ち続け、現在は、カナダのメトロバンクバー公立公園のボランティアとして、26 年間活動しています。
高橋さんは、学生時代、同期の平澤英昭（29C）さんと群大仙之倉山荘で、山を登りながら、自然と親しみ、後輩の今野元治（32E）さんとは、仙之倉谷に入り、沢を登り、桜井勝さん（35C）に アイゼン、ピッケルを貸し与えながら、ともに雪山を楽しんでおりました。
カナダで退職後、すぐに自然保護のボランティアになり、毎日、昼の時間の７０～８０％は、自然の中で過ごしたと言っています。以下カナダ Global NEWS の電子版にアクセスして、二つの Video をご覧ください。
https://globalnews.ca/news/5742277/meet-the-86-year-old-instrumental-to-metro-vancouvers-purple-martin-resurgence/?utm_expid=.kz0UD5JkQOCo6yMqxGqECg.0&utm_referrer=
はじめの Video では、米国南部に生息し、２０００ｋｍ以上離れたここバンクバーでは生息していなかった紫ツバメの話です。この鳥は絶滅危惧種のレッドリストに登録され、現在、バンクバーには推定 27 のつがいが繁殖しております。これは高橋さん達の 10 年間に及ぶ巣箱つくりと忍耐強く世話をしたおかげです。
Video では、ソルトスプリング島の近くの船で発見された雛を育て上げそれを解放しました。高橋さんの指に止まった後、大空に再び飛び立ち、仲間と一緒になり、群生地に飛び立ってゆくところです。
次の Video では、高橋さんが、自分自身の言葉で、メトロバンクバーにおける 26 年間のボランティア活動を力強く英語で語っています。
高橋さんは、この地方では見られないおおみみコウモリを発見しました。何と彼は、最初の発見者でした。それから、ムラサキ燕、野生のフクロウや野生の鳥の巣箱を自分でデザインして、一人で 500 個の巣箱を作り上げたそうです。
彼は、いろいろな鳥の好みを理解して作るので、鳥たちは喜んでそれを利用し、成長してゆきます。
今、コロニーファーム公立公園の巨大なコウモリの巣箱をつくる大きな計画があります。「高橋さんは、このプロジェクトで、必ず、一緒になり、先頭に立って働こうとするだろう」ボランティア仲間は言います。
「86 歳になり、少しゆっくりするつもりです」とつぶやきながら、さらに「今、私の人生は幸せそのものでした。ボランティア活動をするため、カナダに来たものだと感じています。これ以上ほかに付け加えるものは何もありません。メトロバンクバーが将来に向けて自然保護を促進し、自然に対する公の理解促進を図って行くことを心から望んでいます」と高橋さんは語っております。

仙之倉山荘を愛する山岳部 OB　望月恭一（３５C）記